

あの・なはん

No.65

あの・なはん 盛岡弁で「あのねえ」と呼びかけることば

1985（昭和 60）年に女子差別撤廃条約（※ 1）を日本が批准し、1986（同 61）年には、男女雇用機会均等法（※ 2）が施行されました。そして翌年の 1987（同 62）年に「あの・なはん」が誕生しました。ボランティアの編集による女性の生き方を考える情報紙として、これまで 64 号発行されました。今年度、回覧から広報もりおかの男女共同参画特集として新たな一歩を踏み出すことになりました。市民の視点で紙面づくりに取り組んでいきますのでよろしくお願いします。

あの・なはん編集員一同

わたしの中の男女共同参画

●ゆかりさん●

「男女共同参画」のイメージ

当たり前のことですよ。でもお役所っぽくて、ちょっと硬いですね。この言葉を使う頻度が多く、なじんでいる環境にいる人はいいのですが、そうでない人には、関係ないと思われてしまうかも。もっと入りやすい言葉にしたらいいと思います。

初めて社会に出たとき

最初の就職先は、やりたい仕事の内容や条件などを考えて、自分で選びました。いざ入社してみると、旧態依然のところがありました。でも「遅くなると危ないから残業はしないで」と言われても、それも思いやりかなと、特に違和感はありませんでした。

できる人がやればいい

わたしの父は、母を大切にする人ですが、基本的には亭主関白です。夫は、自分のことは自分という家庭環境に育ったので、家事には抵抗がなく、自主的にやっています。わたしは家事が得意なほうではないので、夫が「できる人がやればいいんじゃない」と言ったときは、それまでの緊張や不安が消えて、肩の力を抜くことができました。

市は、男女共同参画社会の実現に向け「新なはんプラン」を作成しました。いろいろな角度から、男女共同参画について3回にわたって取り上げます。今回はわたしの中の男女共同参画をキーワードに考えてみました。市内に住んでいる、ともに会社員のあきらさん（39歳、仮名）ゆかりさん（39歳、仮名）夫妻に話を聞きました。2人は、学生時代に男女雇用機会均等法ができた世代です。



足りないところを補い合っ

どうしたらお互いが気持ちよく生活できるか、試行錯誤してきました。今はいい感じに力を抜いて暮らしています。会社で働くことや家事の大変さも分かり合っています。お互いに「ありがとう。大変だったね」の言葉も自然に出ます。足りないところを補い合って、2人で1人前ならいいかな。社会人としては、不十分かもしれませんが、でも共同生活を続けていくには、それくらいの気持ちでいるほうが、気持ちよく過ごせるかなと思っています。

●あきらさん●

「男女共同参画」のイメージ

大学は、社会学部でしたので、ジェンダー（※ 3）も学びました。当時はジェンダーという言葉をよく耳にしました。

「男女共同参画」という言葉に対しては、漠然とですが、東欧や北欧の福祉が充実していて、人口が少ない国で普及しているというイメージがあります。

職場では

仕事上では、男女差は感じていません。男女というよりも、むしろ、先輩、後輩という意識が強いですね。

広い社会性を持って

わが家では、2人で1組の漫才コンビのように、妻とは呼ばないで相方あいたかと言っています。僕が「ボケ」で相方が「ツッコミ」なんですよ。

相方には、広い社会性を持ってほしいと思っています。転勤族ということもあって、それぞれの土地で仕事やボランティア活動を通して、社会を肌で感じてもらいたいです。

できる人がやればいい

料理は主に相方が作り、僕はメニュー担当です。なにしろ相方は好き嫌が多いので。新婚当時に「ブリ大根」を作って待っていたら食べてくれなかったんですよ。実は魚が嫌いだったんです。

一人暮らしが長かったし、小さいころから母の手伝いもしていました。家事はあまり意識せずやっています。分業もできていると思っています。

※ 1 女子差別撤廃条約
女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約。

※ 2 男女雇用機会均等法
雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保などに関する法律。

※ 3 ジェンダー
文化的・社会的につくられた性別のこと。男らしさ、女らしさなど、個人とは

関係なく、それぞれの性によって期待され、振り分けられる区分。生物学的な性別と区別して用いる。

男女共同参画って何？

女性と男性それぞれの声を集め、わたしたちの中にある思い込みや疑問から「男女共同参画」を考えるヒントを探ってみました。

◇わかっているけれど、ついやってしまう... これって当たり前？

女性の声

- 子どもの持ち物を買うときに、男の子色、女の子色と考える。
- 息子には言わないが、娘には早く結婚してと言う。
- PTAや町内会の活動は女性、会長には男性を推す。
- 夫婦茶わんやはしなど、男性用は大きい。おかしいと思いつつも買う。
- いくつになっても〇〇家の嫁という立場を変えられない。
- いつになったら家事から解放されるのかなと思う。
- 家を空けられない、空けてはいけないと思う。
- 母子家庭に比べ、父子家庭はとも大変だと思う。
- 仕事も遊びも、小さいころから男と女に振り分けている。
- 息子や男の孫には家事は頼まない。

男性の声

- 女性の意見を参考にといいながらも、社会的な仕事（議員など）は男性がやる方がよいと思う。
- 自分が働いて生活が成り立っているから文句を言うなと言う。
- 妻の具合が悪くても、育児や介護を頼む。
- 働く女性が増えているけれど、女性自身が「男女共同参画」を本当に望んでいるのか疑問。
- 男女共同参画は硬い言い方なのでなじみにくく、理解しようという気にはならない。
- 女性が年を取ると急に強くなるように思う。
- 妻が夕飯まで帰ってこないというイライラする。
- 会社などでは、来客にお茶を出すのは女性のほうがいい。
- 娘には、料理上手になってほしい。
- 夫を陰で支えるのが妻の役目だ。
- 女性が出てくる場が多くなっているが、一体何ができるのかと思う。
- 女の孫は嫁に出し、男の孫には家を継いでもらいたいと思う。
- 名前があるのに〇〇さんの奥さんとか、〇〇ちゃんのお母さんと言っている。



はてお



© 向井田泰子

=あの・なはん視点/辞典=

男女共同参画関連年表

- 1948 世界人権宣言
- 1966 国際人権規約
- 1979 女子差別撤廃条約採択
- 1985 女子差別撤廃条約批准(日本)
- 1986 男女雇用機会均等法(日本)
- 1987 「あの・なはん」創刊(盛岡市)
- 1992 育児休業等に関する法律(日本)
- 1995 なはんプラン21(盛岡市)
- 1999 男女共同参画社会基本法(日本)
- 2000 ストーカー行為等規制法(日本)
- 2001 DV防止法(日本)
- 2005 新なはんプラン(盛岡市)

◇あなたにとって「男女共同参画」とは？

初めてこの言葉を聞いたときは、男女とも同じことをしなければいけないと思ひ、これまでの生き方を否定されたように感じた。学んでいくうちに、自分のしたいことを素直にしていこうと思ひ、考えるようになった。

相手を受け入れる、そして男女、会社、家庭など、誰々のとか何々のという所属にとらわれないこと。妻と夫の世界がそれぞれあって、重なり合う部分では尊重し合えればと思う。

いろいろなことに気持ちが揺れ動いても、選択肢のある世の中が理想。

社会が成熟すれば共同参画という言葉はなくなると思う。「男女」だけでなく「どんな人も」が大切。

ともに生きるということだと思ひ。職場では性差による役割の違いはあったけれど、このようなものだと思ひていた。

個性を生かして一人ひとりの人権を認め合せて暮らせる「いい社会」に到達するためのステップ。まだまだ男女の決めつけは根強く残っているけれど。

政治の世界に女性が少ないのは、同性が応援していないのではないかな。女性自身が足踏みしているみたい。

自分の考えを主張できる社会が、共同参画社会だと思ひ。

共同参画について考えているのに、自分の息子の嫁には「いい嫁」を期待してしまうし、適齢期を過ぎた娘を持つ親として揺れる思い。これは、世間体？

少数派を、理解してくれる社会になればいいと思ひ。例えば、子どものいない夫婦など。



あの・なはん編集室にて



わたしの中の男女共同参画

▼だれもがだれかの大切な人だから、認め合いながら、ゆったりと、ゆたかに生きていきたい。(くじら)

▼理論と実践は一致しにくい。自分の思いこみが抜けないのがいちばんの悩みかも。(のん)

▼「女らしく」「女だから」とひとことも言わず、わたしの個性を大切に育ててくれた両親に感謝。それを次の世代につなぐことがわたしの役目。(チポ)